健康社会学研究会

ニューズレター　No.62

発　行：健康社会学研究会
事務局：〒170-8445 東京都豊島区東池袋 2-51-4　帝京平成大学 現代ライフ学部 人間文化学科（担当 森川洋）
TEL 03-5843-4841　FAX 03-5843-3297　E-mail：h.morikawa@thu.ac.jp
ニューズレター NO.62／2011 年８月　編集担当：渡辺多恵子

総会報告

去る５月２８日（土）に、平成２３年度健康社会学研究会総会を開催し、以下の６議案について審議いただき、原案どおり承認いただきましたので、ご報告いたします。

＜議案＞

１．平成２２年度事業報告
２．平成２２年度決算報告（※１）
３．規約の一部改正
４．役員改選に伴う代表の選出（※２）
５．平成２３年度事業計画（案）
６．平成２３年度予算（案）

※１　総会議案書の決算報告書（別紙１）に２点、誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

収支差引残高	誤：２２年度繰越	正：２３年度繰越
収支決算の報告日	誤：平成２２年３月２２日	正：平成２３年３月２２日

※２　総会議案書には議案として提案しておりませんでしたが、会則第７条の規定により議案に加えさせていただきました。

（健康社会学研究会代表　松岡 正純）

新役員紹介

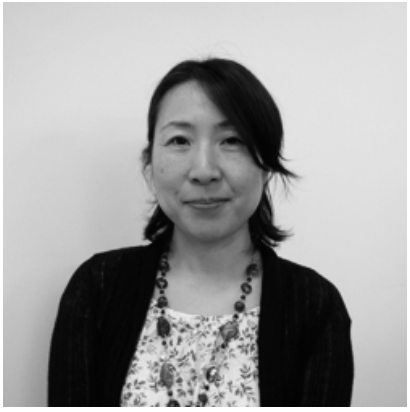
代表

名前：松岡 正純（まつおか まさずみ）
所属：白井市教育委員会
専門分野：健康なまちづくり
（計画づくり、市民参加・協働、講座の企画・運営）
健康な社会づくりをテーマに様々な職種や専門の人々が集うアットホームな会です。みんなが集うことが、健康な社会づくりのはじまりです！研究・実践の活動推進や情報交換、自己のスキルアップ＆キャリアアップ、多職種・多分野とのネットワークづくり等、皆さんそれぞれに思いをもった方々ばかり。参加して刺激を得て、それぞれの分野を開拓しましょう。皆さんの参加をお待ちしています。

副代表

名前：杉田 秀二郎（すぎた しゅうじろう）
所属：文化学園大学現代文化学部
専門分野：健康心理学

私たちが人生で目指す目標は、分野やアプローチ方法は違ったとしても「健康と幸福」の実現だと思います。「みんなちがって、みんないい」（金子みすゞ）と言えるような健康社会の実現のために、研究会としても努力していきたいと思います。



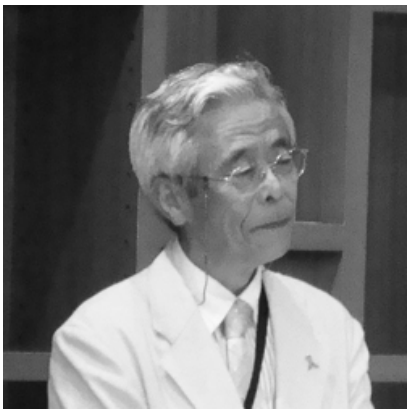
名前：臺 有桂（だい ゆか）
所属：横浜市立大学医学部看護学科
専門分野：地域看護（まちづくり、親子保健、保健師教育）

さまざま異なる背景を持つ研究会のメンバーですが、ヘルスプロモーションへの熱き思いは同じ。お互いにエンパワメントし合いましょう！

運営委員

名前：池田 康幸（いけだ やすゆき）
所属：三芳町健康増進課保健センター
専門分野：公衆栄養（管理栄養士）

今年度から運営委員でお世話になります。健康社会学という学問に出会って、日々の業務をさまざまな角度から考えられるようになりました。ここに集う多種多様の仲間たちと「考え方」のヒントを探ってみませんか。



名前：小山 修（おやま おさむ）
所属：日本子ども家庭総合研究所
専門分野：地区組織論、母子保健など

若いと思っていた運営委員も中年層になり、仕事も研究も充実期を迎えています。皆さん、今期は注目ですよ。

名前：斉藤 恭平（さいとう きょうへい）
所属：東洋大学ライフデザイン学部健康スポーツ学科
　　同大学院福祉社会デザイン研究科ﾋｭｰﾏﾝﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻
専門分野：健康社会学、ヘルスプロモーション

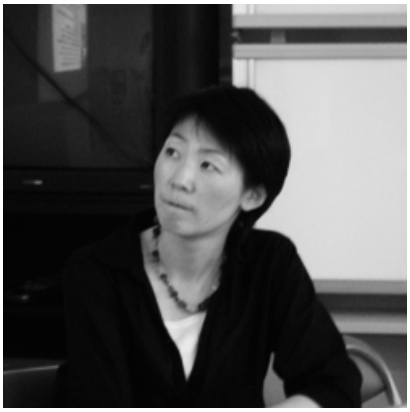
地域の健康づくりの支援や健康なまちのシステム創造が私のライフワークです。地域は千差万別。健康づくりも同様です。

名前：斉藤 進（さいとう すすむ）
所属：日本子ども家庭総合研究所
　　研究企画・情報部システム管理室　兼　母子保健研究部
専門分野：健康社会学
　　（地域組織活動、子育てネットワーク、子育て支援）

地域の住民活動を生涯学習の視点から考えています。
最近は父親の子育て活動（イクメン？）に着目しています。

名前：白子 純子（しらこ じゅんこ）
所属：日本子ども家庭総合研究所
専門分野：母性看護、母子保健（助産師）

いつも研究会で元気をもらっています。研究会への参加が初めてでも、たまーにしか来れなくっても誰もがずっと昔からの知り合だったかのような感覚になる？！そんなホッとできるアットホームな会です。いつでも Welcome！たくさん語り合いましょう！



名前：助友 裕子（すけとも ひろこ）
所属：国立がん研究センターがん対策情報センター
　　がん医療支援研究部
専門分野：健康社会学

10 年ぶりに研究会に戻って参りました。どのような仲間と手をつなげば健康の輪が広がるのか？会員の皆様からのご示唆に学びたいと思います。

名前：鈴木 茜（すずき あかね）
所属：市原市役所　保健福祉部保健センター
専門分野：母子保健（保健師）

研究会の皆さまの活動からパワーとヒントを頂き、日々の自治体保健師活動に活かすことができており、いつも感謝しております。これからも、地域住民の健康支援がよりよいものになるよう、研究会の皆さまとの輪が広がることを願っています。

名前：高澤 みどり（たかざわ みどり）
所属：市原市役所　保健福祉部保健センター
専門分野：地域歯科保健（歯科衛生士）

はじめて研究会に参加させていただいたのは、確か平成１４年だったような…。ここで学んだことはプライスレス！どれだけ身になっているかは別ですが、今年度からは運営委員としての自覚を持ってさらに自己研鑽に励み、より多くの方と出会い、学んでいきたいと思います。

名前：森川 洋（もりかわ ひろし）
所属：帝京平成大学現代ライフ学部人間文化学科
専門分野：健康社会学、ヘルスプロモーション
　　職業リハビリテーション・就労移行支援事業

毎回、様々な分野で実践される人たちの活動内容や、ものの見方、考え方に触れ、多くの刺激を受けています。
研究会活動のさらなる充実も図っていきたいと思います。

名前：渡辺 多恵子（わたなべ たえこ）
所属：筑波大学大学院 人間総合科学研究科 博士後期課程
専門分野：保健情報学、地域保健学

自由集会（公衆衛生学会 in 札幌）に参加させていただいたことをきっかけに、仲間入りさせていただきました。
未熟者ですが、がんばります！！

5月 月例会報告（平成23年5月28日開催）

● テーマ / 講師
高齢者のヘルスプロモーション活動の実際 / 斉藤 恭平 氏（東洋大学 教授）
健康なまちづくり / 和田 耕太郎 氏（ヘルス・マネジメント・コンサルタント）

＜高齢者のヘルスプロモーション活動の実際＞

５月の月例会の前半は運営委員の斉藤が担当させて頂き、「高齢者の社会活動とヘルスプロモーション」というテーマで話題提供を致しました。

数年前から桜美林大学大学院の芳賀先生らと研究している高齢者の役割や社会活動、社会的ネットワークと健康との関係について、北海道今金町の事例をベースに報告をしました。

この研究の概要は、①自治会レベルの広さの地域に介入し、②多くの住民を巻き込み、③コミュニティーエンパワメントを図りながら、④高齢者の希望する役割を設定し、⑤それによる健康への効果を検証するといったプロセスによって構成されています。特徴は役割設定のために住民による話し合いの機会（ワークショップ）を何度も繰り返し（トライアンギュレーション）、そこからボトムアップな活動を巻き起こす（コミュニティーエンパワメント）ことを基本としている点であると思われます。とかくこうした研究は専門家や行政が設定した内容を特定の地域を対象に実施して、その効果を検証する。といった疫学的な介入研究がほとんどですが、住民の気づきや主体的活動を研究者や専門家がサポートしながらそこから作り出された活動を観察するといった、参加型アクションリサーチの要素を多く含む試みでありました。
結果として今回の研究では役割設定が高齢者の QOL や ADL、精神的健康度の維持増進に貢献できることが証明されました。

役割によって人は健康になるなんて、まるでコロンブスの卵のような研究ですが、筋トレ、パワリハに代表される昨今の高齢者の介護予防策に「役割」という新たな視点を注ぐヒントになったのではないかと感じています。

（健康社会学研究会運営委員　斉藤 恭平）

＜健康なまちづくり＞

「健康なまちづくり」の実現に向けて取り組んでいるところであるが，そもそも「健康なまち」とは何か，取り組みに当たって何が必要とされるのか，などについて発表する機会をいただいた。内容は，１）健康のとらえ方，２）健康政策のあり方，３）健康なまちのあるべき姿，の３つに大きく分けられるのではないかと考えている。

健康の定義はＷＨＯ憲章に始まって古今東西に無数に存在している。しかしながら「健康」を１人ひとりについてだけでなく「まち」として考えてみた。そのときに「健康」といっても「狭義の健康」もあれば「広義の健康」もあるのでないかと考えたことから「健康なまちづくり」の検討が始まった。

「広義の健康」を考えたときに，それを地域の住民に対して保障するために公的責任が求められている。ただ「健康政策」と言われるものが果たして現在の自治体において存在し得るのか否かが問題である。そこで自治体の総合振興計画から事業を洗い出し「広義の健康」と照ら

し合わせて「健康政策」についても検討してみた。

それから，「健康なまち」に向けての取り組みには「まちづくり」が不可欠ではあるが，「健康なまち」を目指す「まちづくり」には何が必要とされるか，その要因を探ってみた。事例として「まちづくり」に取り組んでいるある市町村を取り上げ，その結果，「まちづくり」としてはいい事例かもしれないが，「健康なまちづくり」として考えると大きく不足しているものがあるのではないかという結論になった。そこで，「健康なまちづくり」としてはどのように展開していくことが望まれるかを提言することにした。

（ヘルス・マネジメント・コンサルタント　和田 耕太郎）

7月 月例会報告（平成23年7月9日開催）

● テーマ / 講師

ヘルスプロモーションに関するオタワから現在までの WHO の動向

湯浅 資之 氏 （順天堂大学医学部公衆衛生学講座 准教授）

去る7月9日（土）、順天堂大学本郷キャンパスにおいて月例会が開催されました。講師には、これまでに glocal※な活動をご経験されてきた湯浅資之先生（順天堂大学医学部公衆衛生学講座准教授）をお迎えし、「ヘルスプロモーションに関するオタワから現在までの動向」と題したご講演をいただきました。

WHO のヘルスプロモーションに関する国際会議文書は、オタワ憲章をはじめ会員の皆様なら一度は耳にされた内容があることでしょう。あるいは、国内外のヘルスプロモーション専門家によってその詳細に触れた機会があるかもしれません。ところが、湯浅先生のご講義では、それらの所見（表舞台）のみならず、裏舞台にも着目され WHO の公文書や関連専門誌等の文献考証により WHO ヘルスプロモーションの動向を客観的な立場から分かりやすくご解説くださいました。詳細は当日のパワーポイントをご覧ください。

個人的には、最後に先生がディスカッションの材料にと話題提供してくださった視点が大変興味深いものでした。ヘルスプロモーション活動の予算をつけるためのエビデンスを構築することが求められている、確かにその通りだと思います。医学（疫学）分野では、人的資本（human capital）や社会関係資本（social capital）が人々の健康にインパクトを与える要因となり得ることを実証するためのコホート研究が動きつつあるとのことですが、健康社会学をはじめとする社会科学分野においてはどのような方法論が貢献に値するのだろうか、ということを研究会終了後の電車の中で考えていました。健康社会学研究会では、この続きの議論が深められることを今後期待しております。

※ glocal は local＋global を意味した国際的な造語です。

（健康社会学研究会運営委員　助友 裕子）

「第 70 回日本公衆衛生学会総会　自由集会」のご案内

集会名：健康社会学研究会
～　ヘルスプロモーションによるまちづくりの事例集をつくろう

●日時：10 月 20 日（木）18 時～（予定）
●会場：未定（ホームページ http://www.fureai.or.jp/~ribbon/healpro/ でお知らせします！）

＜概要＞
ヘルスプロモーションによるまちづくりに取り組んでいる地域保健の事例を通し、ヘルスプロモーションの時流、活動の原理・原則を再確認することを目的とします。また、発表事例からヒントを得るだけではなく、フロアとの意見交換を通じて、紹介した事例に対する発展的な意見を頂き、相互に創造的なヘルスプロモーションアクションにつなげていくことを目指します。

＜プログラム＞
1．実践事例紹介（発表者調整中）
2．総括と話題提供　「（仮）ヘルスプロモーションの時流、活動の原理・原則」
講師：助友 裕子氏（国立がん研究センターがん対策情報センター）

9 月 月例会のご案内

● 日　時：平成 23 年 9 月 10 日（土）15 時～17 時
● 会　場：日本子ども家庭総合研究所 3 階第 1 会議室
● テーマ：「いのちってすごい！」～思春期青年期におけるこれからの性教育のあり方～
（1）いのちの伝え方（一部演習）　（2）これからの性教育のありかた
※一部演習を交えながら、二部構成でお話いただく予定です！
● 講　師：白子 純子氏（日本子ども家庭総合研究所）

出版企画の経過報告

出版企画について、エントリーシートを提出していただいた会員の方々にはご連絡が遅くなってご心配をおかけし、申し訳なく思っております。現在の進捗状況をご説明いたします。

今回の執筆ですが、本年３月の新・執筆エントリーシートにありましたように WHO が言っている５つの主要な活動（公共政策づくりや環境づくりなど）に皆様の原稿を分類するということを試みております。そこで、皆様には実践や研究を記すだけでなく５つの主要な活動や５つのプロセス戦略という観点からまとめていただきたいと考えております。

ただそのためには、その観点というものが具体的にどのようなものかという「執筆要領」と、書き方の例を示す「執筆例」が必要になります。それを出版企画委員会では検討中ですので、エントリーされた方には今少しお待ちいただけますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

（出版企画委員長　杉田 秀二郎）